

雪がた

— 豊科病院だより —



豊科病院広報誌
令和 6年 4月19日 発行
発行者 豊科病院広報文化委員会
〒399-8205
長野県安曇野市豊科5777-1
Tel : 0263-72-8400
URL <http://www.shironishi.or.jp/>

豊科病院の理念

自他を問わず人間を愛し、慈しむ心を礎に、病める人、障害を持つ人、悩める人に常に自分の家族に接するように優しく接し、最良の医療・福祉サービスを提供し、地域の人々の要求及び個別的な要求にも応え、地域で人々が快適に生活できるような支援を行う。

新年度4月1日より西村前事務局長の後任として着任しました上條卓と申します。

私は平成10年に豊科病院に入職しました。その後、介護老人保健施設安曇野メディア、法人本部、再度安曇野メディアと異動し、この度の人事異動で、豊科病院へ10年の歳月を経て戻ってまいりました。

なにぶん久々なこともあり、多少の不安と戸惑いを感じておりますが、まずは当法人の掲げる理念「いつも優しく」に沿って、病める人、障害を持つ人、悩める人の権利と心情を重んじて「いつも優しく」接することを心掛け、信頼される豊科病院で在り続けられるよう事務員としての職務・サポートに精励してまいりますと思っております。

着任のご挨拶

事務局長 上條 卓

職員の皆様へ、現場での意見が重要だと思っております。



おりますので、改善点等があれば建設的な提案をお願いいたします。経営状況が厳しい中でありますので、全て聞き入れられる訳ではありませんが、今やるべき事なのか、今出来る事なのか、または今後への課題なのかを判断して、情報共有しながら最良の医療サービスが提供できるよう職員の皆様と一丸となって歩んでまいりたいと思っております。

今後とも皆様方のご指導、ご鞭撻をよろしくお願いたします。



令和6年度 新年度式

4月2日、豊科病院、安曇野メディア、アルプスホーム合同の令和6年度の新年度式が開催されました。

関健理事長、総長と五味満徳病院長が訓示し、続いて、昇格人事も含め、5名の職員に辞令が交付されました。



デイケアミニ文化祭

精神科デイケアでは、通所されているメンバーさんの発案で、この4月に「ミニ文化祭」を開催し

ております。口頃のデイケア活動の中で制作した作品を展示しています。



本格的な文化祭」となると、メンバーさんも職員も、正直なところ準備や運営が大変です。一方、この「ミニ文化祭」は、準備も容易で、それでいて作品が楽しめ、とても良い企画になったと思います。

院内各所に生け花

作業療法にて、それぞれの病棟で入院患者さんが生け花をされました。その生け花を、当院の病棟やホールなど各所に飾っています。建物の



老朽化が否めない当院ですが、その華やかな生け花と香りに、院内の雰囲気も春らしく変わりました。

特集

退院された方の声③

【インタビュー】 通院患者さん(60代)へのインタ

〇：豊科病院には6ヶ月の期間受診されていますか？

A：6、7回は入院したかな。グループホームで暴力などトラブルを何回か起こして、202年に入院しました。グループホームに帰ることができると思っていたのに、先生からグループホームは戻らないほうが良いと言われ、退院先が無くなっちゃったと思います。一生病院に居ないといけないと思います、お先真っ暗と思います。

入院中は看護師さんにまた暴力を振るうのでは？と言われ、看護師さんに当たり散らした時期もありましたが、今思えば、看護師さんが自分を試していたと思います。

入院中は、翌朝起きたら



自分は死んでいるのでは？」と思い、眠れない日々でした。でも、徐々に、朝起きたら「口」が始まって良かった」と思うようになり、朝食も楽しみました。

豊科病院の三食はかなり美味しいです。入院中は青汁を朝晩飲んだり自由に過していましたが、先生から「車もバイクも運転はやめたほうが良い」と言われ、やはり地域で暮らすことは無理だと、心が折れていました。

Q：その状況でいつか退院をしたのかな？

A：入院しているうちに徐々に苦痛じゃなくなり落ち着いて来ました。そしてある日、急に思いついて「やれるー」と思い、先生に「明日、退院したい」と希望しました。先生は「明日の今日は無理だけど、1週間後はどうか？」その間に退院の準備をする」と言ってくれて、それに納得しました。

退院前に、病院のソーシャルワーカー（精神保健福祉士）と相談支援事業所の人、相談支援専門員が、空き家の自宅と一緒に引っ越してとろあえず住める状態にしてくれました。ポイラーが壊れていて調子が悪かったので、お風呂は社協のお風呂に通う計画になりました。支援会議もやはり通うようになって思いはじめてから一

週間で退院しました。再入院する可能性のあるこんな自分を信用してくれた先生や支援者の人たちに感謝です。

Q：1人で生活はどのような生活を？

A：入院から2年後に退院したけど、急な退院だったので、家の中が整理できていなくて、まずは業者を頼んで不要なものを廃棄しました。それから、今日までの間に、家具や電化製品などを買い替え、家のリフォームをしました。最近、自中がやむ整理できました。

Q：お一人暮らしですが、誰か家に来てくれますか？

A：訪問看護師さんが週に2回、ヘルパーさんが週に3回、保健師さんが時々、地域（安曇野市障がい者基幹総合相談支援センター）のソーシャルワーカーさんが時々訪問に来してくれます。



Q：自宅の生活はどのような楽しみはありますか？

A：先生から、車もバイクもダメと言われてショックだったけど、今は車もバイクも危ないとい

思っています。自分を見捨てなかった先生に感謝しています。先生は近所のおじさんという感じで、はきり言ってくれるし、何でも話を聞いてくれる先生で、そのところが好きです。また、絵手紙が趣味なので、家の中で、絵手紙を描いている時間が長いです。

Q：口中は1人で生活はどのような生活を？

A：自宅で寝ていることが多いですが、スーパーに買い物とか、歯医者とか、市役所の支所に行ったり、豊科病院に通院したり、やることは色々あります。なので、作業所のようなところには通っていません。

Q：一人暮らしで不安なことはありますか？

A：強迫観念があり、外出時に、火の元や鍵をかけたか、いつも不安になります。

Q：今の生活はどのような？

A：両親が他界して、自宅が空き家になりましたが、自宅に住むつもりは無かったので、入院前に売り飛ばそうと思って不動産屋に査定してもらいました。その時、病院のソーシャルワーカーに、すべ



に決断しないほうが良い」と言われ売らなかつた。その家で、今は自由な生活ができています。売り飛ばさなくては本当に良かった。今の生活は夢が広がる。夢のよう。好き勝手やして生活していますが、その生活は責任が伴うこともわかっています。

Q：入院患者さんにメッセージはありですか？

A：精神科は施設ではなく病院だから、長く居るところではないので、退院することをお願いしています。

この「退院された方の声」のコーナーは、当院精神科に通院されているお一人の患者さんから、私のような退院した患者さんが、地域でどんな生活をしているのか、豊科病院の広報誌に載せて紹介してほしいと、本誌の編集者にご提案をいただいたことがきっかけで誕生しました。そこで、5回の特集を組み、退院された方々の地域生活を「紹介しています」。今回（第3回）は、通院されている60代の患者さんの声を掲載しました。

なお、インタビューさせていただいたそれぞれ患者さんから、本誌へコメントを掲載する承諾を得ております。

外来 医師担当表

令和6年4月1日現在

曜日	月	火	水	木	金	土
内科	休診	休診	休診	信州大学 病院 医師	休診	休診
精神科①	なかざわ ちとお 中澤 知遠 医師	にしざと よしあき 西里 吉昭 医師	こみぶち みつり 五味洸 満徳 医師	おかざき たかし 岡崎 隆司 医師	なかざわ ちとお 中澤 知遠 医師	こみぶち みつり 五味洸 満徳 医師
精神科②	かわぶち まさる 川洸 優 医師	なかむら ちえみ 中村 千恵美 医師			なかむら ちえみ 中村 千恵美 医師（新患）	

◎ 受付時間 午前 7:00～正午
 ◎ 診療時間 午前 9:00～終了まで ※木曜日の精神科は、午前9:30～診療開始
 ※ 午後は全科休診となります。 ※ご不明な点は受付へご確認ください。
 ※ 日曜・祝日は全科休診となります。 お問い合わせ先…TEL0263-72-8400

～ 編集後記 ～

豊科病院広報誌「雪がた」第83号をお届けしました。お読みいただき、いかがだったでしょうか？
 新年度が始まり早3週間。各地で桜の開花が遅いと伝えられていましたが、ここ安曇野も一気に開花が始まり、そして今は葉桜です。



そんな中、今年は松本城の外堀の桜並木などをライトアップする「光の回廊」へ行ってきました（本誌編集者の一人）。頭上いっぱいに咲く花の道は、幻想的に闇夜に照らされ、大勢の人を魅了し、「いつまでも眺めていたい」と、とても穏やかで幸せな気持ちになりました。皆さんも来春は是非行かれてみては！

※表題「雪がた」について

春から夏にかけて北アルプスでは様々な雪形が見られ、当院からは常念岳の常念坊や、蝶ヶ岳の蝶などの雪形を正面に望むことが出来ます。雪形が季節の変化に合わせて融けるように、患者様の病も融ける・・・表題にはそんな願いが込められています。また、表題の写真は当院屋上から撮影しました。